

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)プレザンス東九条西河辺Ⅲ 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体				
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し			評価点	重み係数	評価点	重み係数								
Q 建築物の環境品質												2.6				
Q1 室内環境												2.9				
1 音環境												3.0				
1.1 室内騒音レベル												3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音												3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能												3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能												3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音												1.0	-	-	-	
2 温熱環境												1.1	0.35	2.4	1.00	2.2
2.1 室温制御												1.3	0.50	3.0	0.50	
1 室温												1.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能												2.0	0.38	3.0	0.38	
3 ソーン別制御性												-	-	-	-	
2.2 湿度制御												1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式												1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境												2.3	0.25	3.1	1.00	3.0
3.1 屋光利用												1.8	0.30	2.4	0.35	
1 屋光率												1.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口												-	-	1.0	0.30	
3 屋光利用設備												3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策												2.0	0.30	4.0	0.35	
1 屋光制御												2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度												3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御												3.0	0.25	3.0	0.29	
4 空気環境												3.6	0.25	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策												4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質												4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気												3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量												3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能												-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮												3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理												-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視												-	-	-	-	
2 喫煙の制御												-	-	-	-	
Q2 サービス性能												-	0.30	-	-	2.8
1 機能性												2.4	0.40	3.2	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ												3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性												-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応												-	-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画												3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性												1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)												-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース												-	-	-	-	
3 内装計画												1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理												3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計												3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保												3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性												2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振												3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能												3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数												3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数												4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔												2.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性					2.8	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					2.8	0.30	2.3	1.00	2.3
3.1 空間のゆとり							1.6	0.50	
1	階高のゆとり						2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)				1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					2.8	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)						0.30			2.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30			2.0
3.1	地域性への配慮, 快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)		2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー						0.40			3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	0.20			3.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10			3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEU][BEIm] = 0.97	3.3	0.50			3.3
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価									
4.1	モニタリング								
4.2	運用管理体制								
集合住宅の評価					3.0	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル						0.30			3.2
1 水資源保護					2.2	0.20			2.2
1.1 節水					1.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.60			3.3
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	外壁RCの内壁はGL工法	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					4.0	0.20			4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				ビニールクロスリ:安全シート添付	4.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.70			
1	消火剤								
2	発泡剤(断熱材等)			現場発泡ウレタンフォームのA種使用	5.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境						0.30			3.0
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出量計算参照	3.8	0.33			3.8
2 地域環境への配慮					2.3	0.33			2.3
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
2.3	地域インフラへの負荷抑制				2.2	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制				2.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動								
3	悪臭								
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制								
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.7	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策の一部を満たす、広告照明無し。	4.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる